

lecture of haborogy
はぼろ学講座

あなたはどれだけ
はぼろのことを知っていますか？

第5回

はぼろ学講座は「羽幌の成り立ち、自然・動植物、生活・文化を総合的に学び、羽幌町を訪れるお客様にまちを紹介出来る人材を育成すること」を目指しています

開拓の陰に
多くの犠牲が
ありました



青山芳雄さん

9月のはぼろ学講座は、
羽幌の歴史をひもときました

羽幌炭鉱と鉄道のなりたち

9月7日に行われた第9回はぼろ学講座は「ふるさと歴史散歩・羽幌炭鉱と鉄道のなりたち」と題し、羽幌町文化財保護委員会委員長である羽幌地方郷土文化史研究家の青山芳雄さんを講師にお招きしました。

大正12年に着工された羽幌線は昭和7年9月に開通しま

した。その後、幌延から遠別までは昭和11年に、羽幌と築別間は羽幌炭鉱の創業開始により昭和16年に開通しましたが、残る遠別と築別間は戦争のため資材不足で工事が中断され、留萌管内全線が開通したのは終戦後の昭和33年、着工から実に35年もの月日が過ぎてからでした。

羽幌炭鉱を含む苦前炭田の調査はアメリカ人の地質学者ライマン氏が最初といわれ

日本人では明治22年に北海道庁の西山正吾氏が羽幌川・築別川筋を調査したとされています。採炭は明治30年ころから露頭炭の採炭を行ったようですが、山奥からの輸送手段がないため次々に中止に追い込まれていきました。

大正7年に鉱区はカネタツ鈴木商店へ移り、その後系列の太陽曹達の所有となりました。昭和14年に太陽産業へと名称が変わり、築別炭鉱の採炭が始まります。築別炭鉱にあった小学校の名前は会社の名前から太陽小学校と名付けられたそうです。



(右) 調査隊による地質調査が行われている様子。
(上) 貴重な本坑内の写真。

(資料提供：羽幌町郷土資料館)



昔の鉄道建設や炭鉱開発にはタコ部屋制度の労働者が多く動員されていました。それはまさに労働者の人身売買で、6カ月間80円程度の前払い金で人格無視の過酷な労働に従事させられたそうです。そのため、逃亡防止に不寝番がついたり、点呼は朝と作業後と就寝の3回行うなど厳しい監視下にあったそうです。

戦後、米軍が進駐しタコ部屋中止命令を昭和21年に発したことで、あつせん業者、土建業者は検挙され処罰されることになりました。

青山さんは、鉄道や炭鉱など北海道開拓の陰には、このような多くの犠牲があったことを忘れてはならないと強く語りかけました。

にしん場の歴史
難読屋号に会場は騒然

第10回はぼろ学講座は9月21日に開催されました。

テーマは「にしん場の歴史」として元漁師の蝦名湾(えな)さんを講師にお迎えしました。対話形式で進められた講義では、「4月までにとれたにしんは身欠にしんなどに加工された

Q はぼろ学クイズ

これは昭和20年代に使われた屋号です。どのように読むのか当ててみましょう。
(資料提供：蝦名 湾さん、熊谷 正さん)

① ② ③ ④

① ② ③ ④

⑤ ⑥ ⑦ ⑧

回答： マルキイチ カネマルイチ イゲタニ ダキヤマサン ヤマシメイチ ウルクト



蝦名湾さん

は現地見学会として10月21日に炭鉱跡地をめぐる予定です。なお、今回は配車の都合上、事前の参加申込が必要となっており、受付は既に終了しています。

11月は通常通りの講義となりますので詳細は来月号の広報でお知らせいたします。受講生でない方もどうぞお気軽にご参加ください。

はぼろ学講座のお問い合わせは、町民課までご連絡ください。
☎ 0164-62-1211(内線105)
✉ choumin@town.haboro.hokkaido.jp